

美術科(各教科の概要・授業案)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024631

美術科

<研究主題>

主体性を高める授業過程

<主体性ある人間>

様々な状況や場面において、自己と集団・社会・ものとの関わりを意識しながら、

○自己や集団にとって価値あるものや課題を見付けだす

○自己や集団の取るべき行動を決定し、実践する

○自己や集団の決定や行動を振り返り、評価し、改善する

これらに、継続的に取り組むとともに、自己や集団を高め続けるよう努力する人間

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術

家庭

英語

<教科で育てたい生徒像>

美術文化を大切にし、
創造活動に意欲的に取り組むことができる生徒

<教科で身に付けさせたい要素>

〔知識・技能〕【要素A】

- ・形や色彩などの造形要素全般に関する基礎的な知識
- ・材料や用具の使い方に関する基礎的な知識や技能
- ・材料や用具の特性に応じた制作手順や完成の見通しの立て方に関する基礎的な知識や技能
- ・美術作品、文化遺産などの基礎的な知識

〔思考力・判断力・表現力・その他の能力〕【要素B】

- ・対象を深く見つめ、感じ取る力
- ・独創的、総合的に考える力
- ・自分のおもいを表現する力
- ・豊かに発想し、構想する力
- ・意図に応じて自分の表現方法を創意工夫する力
- ・人と美術とのかかわりについて考える力
- ・自他の美意識、価値観について考える力

〔関心・意欲・態度〕【要素C】

- ・自信をもって自分のおもいを表現しようとする態度
- ・謙虚な姿勢で他者の作品に耳を傾け、おもいを感じ取ろうとする態度
- ・豊かな生活や美しい環境を創造していく意欲と態度
- ・日本および諸外国の美術文化を理解し、守り育てていこうとする態度

<教科テーマ>

自信をもって自分のおもいを表現する生徒の育成
～美術の基礎的能力を高める工夫を通して～

○教科テーマ設定の理由

文化は人々が生きて生活していく上でかかわるすべてのものや考え方であると言える。文化におもいを馳せ、大切におもうことは広く人類を大切におもうことと同じではないだろうか。文化の価値を学ぶことは、人類の価値を学ぶことであるとも言える。とくに美術文化には非言語によってもたらされたものが多く、さまざまな英知や工夫がそこにはある。人間や自然がもつ美しく魅力あるものへのあこがれや感動、快適さや利便性を求めた生活全般にかかわる造形美、世界平和への切なる願い、一生懸命気持ちを込めて創り出した作品には価値があることに気づく。人間の持つ美意識の変遷、美術が暮らしの豊かさにいかに深く関わっているか、人類に対する希望など、謙虚に耳を傾ける姿勢を大切にしたい。

近年、科学の発達はめざましく、とくにインターネットを含むメディアの発達は著しい。そうした現状の中で、生徒達はあふれる情報から必要な正しいものを取捨選択する力、思考判断する力、表現力などにおいて課題が見られるようになってきた。美術科では、表現や鑑賞の過程で、自分の感覚を働かせ、試行錯誤しながら想像と創造を繰り返し、完成したときの喜びや作品の良さに共感する心を大切にしたい。本来、人間は自分から何かを発想したり、時には必要なものを自分でつくったりする欲求をもっている。そして、自分の手でそれを成し遂げた時の喜びは大きい。以上のような理由から「美術文化を大切にし、創造活動に意欲的に取り組むことができる生徒」を教科で育てたい生徒像とした。

中学生の実態として、表現が上手下手にこだわる姿や自分をさらけ出すことへの恥ずかしさなどがあげられるが、知識、発想、工夫、構想、理解の能力は高く課題にはとても一生懸命取り組む集団である。中学生になると、上手に描いたり、つくったりして周りの人に認められたいといった気持ちが強くなってくる。自我が芽生えるようになり、喜びを感じたり、悩んだり、これまでにはなかったおもいに気づいたりするようになる。

そして、こうしたおもいを表現したいという気持ちも次第に強くなってくる。しかし、そうした反面、自分のおもいに自信をもって表現することに恥ずかしさを感じる生徒もいる。そうした点に切実に応えていく必要があるため、教科テーマを「自信をもって自分のおもいを表現する生徒の育成～美術の基礎的能力を高める工夫を通して～」に設定した。創造活動(表現や鑑賞)ではみること、感じ取ること、考えること、想像すること、発想すること、構想すること、工夫すること、美意識といった内面的な思考やおもい(要素 B・C)、が必要である。生徒が自信をもち、意欲的に取り組むようになるためには、生徒のおもいを大切に育み、また創造するための基礎的な知識や技能(要素 A)の習得も系統的に取り組む必要がある。自分のおもいをもち、それをかたちにする。そうした喜びが、次への創造の意欲や新たな課題や目標を生み出す力につながる。そのためには、生徒につけたい力を明確にし、その過程を計画的・段階的に取り組むことが重要である。その積み重ねが、生徒の自信をもった表現などにつながるであろう。自信ははじめから身に付いているものではなく、本人の努力や、それを周囲に認められる経験があつてはじめて身に付くものである。生徒には自分のおもいや、自身が創造した作品や見方・感じ方などに自信をもって語り認め合える人に育ってほしい。

生徒一人ひとりがつくりあげた主題例 【ワークシートの記述より】

- ・日本には豊かな自然がある ・フィギュアスケートの優雅さと力強さ
- ・心の泉に映っている月，船，静けさ，落ち着いた底の見えない感じ
- ・古くからある日本の建築美術 ・心をきれいに，そして心に余裕をもってほしい
- ・敵に狙われにくくなるために縞をもったシマウマ。自然界の不思議。進化のすごさ。
- ・家に帰ったときの安心感，落ち着く感じ ・海の美しさ，幻想的なところ

上のワークシートにあるようにこれまでに体験した墨表現の工夫からよさを見つけ，さらに想像したことや伝えたいことなどをもとにして主題づくりをした。これまで学んだ伝統的な文化的な側面からさらに今の自分は墨表現をどうとらえ，何を伝えたいのかが感じられた。かなり具体的なイメージをもつものと抽象的なイメージのものに分かれたことから発想力を伸ばす題材としても可能性や魅力を感じた。

(3) 第7時「本制作」より，生徒の姿

本番の用紙に最初に取り組む様子を参観していただいた。参観者からは，自信やこだわりを持っていた，まだまだ悩んでいた生徒もいた，表現がどうなるのかなどをさかんに試しがきをしていたなどの声を聞いた。身に付けた技能と題材や自分から発想したおもいをもち，作品づくりに打ち込む姿が多く見られた。

(4) 要素育成の判断基準（特に意識したもの）について，評価結果

【要素B】豊かに発想し，構想する力

評価方法：ワークシートの記述，対話，観察		単元前	単元後
3	墨表現における特性から感じ取ったよさや自分が伝えたいことや想像したことなどを基に，墨表現にふさわしい主題を生み出している。	17人	33人
2	墨表現における特性やよさなどからは感じ取れないが主題を生み出している。または，特性やよさなどは感じ取れているが，主題を生み出すことができない。	17人	6人
1	墨表現における主題も表現も生み出すことができない。	5人	0人

4 成果と課題

教科テーマに関する生徒自己評価アンケート調査結果

	できない	1	2	3	4	5	よくできる
単元前		0人	6人	10人	14人	10人	
単元後		0人	1人	10人	15人	13人	

今回は，【要素B】を充実した内容にするために第1時～第3時にかけて，水墨表現ならではのよさや魅力を感じ取らせる活動【要素A】を取り入れた。墨表現の工夫とこれまでに培ってきた自分の伝えたいことと想像したことを主題づくりの原点とした。伝えたいことや表現したいことを言葉やイメージなどでとらえさせた。主題づくりに関わる【要素B】の変容についてであるが，はじめは墨表現にふさわしいものと自分の表現したいものとが一致していない生徒が多かった。一部ではあるが，言葉やイメージが何も浮か

んでこない生徒もいた。授業では、つくりあげた主題を他者と相互に説明したり、アドバイスをもらったりするなど交流をし、主題をゆるぎないものにした。教師は制作段階に入る前にワークシートの内容やこれまでの作品制作からヒントになることを中心に個別に声をかけることを意識した。これまでの2年間に培った授業に向かう態度やこれらの手立ての結果、多くの生徒が墨表現のよさから表現したいことを主題として設定することができた。教科テーマに関する生徒自己評価アンケート調査結果にもあるように少しではあるが、生徒の自分のおもいを自信をもって表現する値が伸びている。

しかし、はじめに言葉やイメージが定まらなかった生徒もあり、主題づくりに向けたいねいな手立て（ワークシートの工夫や学習形態）づくりは今後の課題である。作品づくりを感覚だけで進めてしまうと全体が見えなくなってしまうときがあるため、途中での友達同士での関わり、ワークシートに立ち戻ること、俯瞰して自分の作品を見ることなどをアドバイスしている。本題材の作品鑑賞では、作品づくりを進めながらお互いに伝えたいこと、主題【要素B】が表現を通して伝わったのか、検証していく。そしてお互いの美意識や価値観についてどうとらえ、どう感じたのか、気づかせていきたい。